

## 組織目標評価報告書(2019年度)

部局名: 安全衛生推進機構

部局長名: 渡邊 和良

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>教育領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
1. 学部生及び大学院生の安全と健康(衛生)や社会人としての安全意識に通ずる基礎的な安全衛生教育を実行する。 2. 高リスクが付随する研究実験に対する危険対応力を培う安全衛生教育を進める。 3. 緊急時行動や応急処置に関する実践教育を通してリーダー的な人材育成する。	1. 学部生及び大学院生の安全と健康(衛生)や社会人としての安全意識に通ずる基礎的な安全衛生教育として、「全学ガイダンス(2,195名受講)」「安全衛生入門(59名受講)」「サステナブルキャンパスを目指して(158名受講)」「(学部生対象)」「専攻概論(123名受講)」「学際基礎科学 I (13名受講)」「(大学院生対象)」を実施した。 2. 高リスクが付随する研究実験に対する危険対応力を培うために、冷媒・高圧ガス使用者講習(228名受講)、実験研究者を対象にした配管接続講習会(34名受講)、局所排気装置の自主検査講習(7名受講)を実施した。また、一般企業向けに開催した化学物質危険性体感セミナーには、学生・教職員13名が受講した。 3. 緊急時行動や応急処置に関する実践教育を通してリーダー的な人材育成するために、学生発案講義「いざというとき、慌てないために～危機管理と対処法(50名受講)」を開講し、救命救急法の講義では、実技を交えて実施し、ボランティア活動、災害時のリスクマネジメント等については、グループディスカッション形式で実施した。
<b>②研究領域</b>	<b>研究領域の目標の達成状況</b>
1. 非定常な研究実験における自主・自律的なリスク管理手法を研究する。 2. 重大事故を防ぐための安全衛生教育手法や教材開発の研究を進める。 3. 安全衛生分野の相互理解を深め、グローバルな枠組みのあり方を研究する。 4. 留学生向け安全衛生教育教材の開発とその活用方法を研究する。 5. ASEAN 諸国の大学等における安全衛生教育の実態調査を進める。	1. 非定常な研究実験における自主・自律的なリスク管理手法の研究を行い、研究実験施設・環境安全教育研究会(REHSE)にて講演1件を行った。 2. 重大事故を防ぐための安全衛生教育手法や教材開発の研究を行い、学生や教職員向けの安全衛生教育の講義・講習に反映した。 3. 安全衛生分野の相互理解を深め、グローバルな枠組みのあり方の研究を行い、国際会議ACSEL2019に出席して1件の研究発表を行った。 4. 留学生向け安全衛生教育教材の開発とその活用方法の研究を行い、国際会議ACSEL2019に出席して1件の研究発表を行った。 5. ASEAN 諸国の大学等における安全衛生教育の実態調査を進めるために、マレーシア国のマラヤ大学の視察と安全衛生担当との意見交換を行い、また、ミャンマー国の海事大学及びモービー工科大学にて安全衛生に関する講義を行った。
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>社会貢献(診療を含む)領域の目標の達成状況</b>
1. 安全衛生関連の情報を社会に発信するとともに、危険有害性のリスク低減化について産学間で連携して取り組むなどの啓発活動を行う。	1. 一般企業向け「化学物質危険性体感セミナー」(25名受講)を開催し、危険有害性のリスク低減化について、知見を得る機会を設けた。
<b>④管理運営領域</b>	<b>管理運営領域の目標の達成状況</b>
1. 兼務教員及び関連センターと協働して機構の活動を活性化させる。 2. 運営会議の開催と円滑な運営に努める。	1. 危機管理室スタッフ会議(安全衛生担当)に参画し、災害時初動マニュアルの策定や危機管理指針、BCPの改正を実施した。 自然生命科学研究支援センターと連携し、外国人留学生向けの安全衛生に関する英語講習を実施した。 環境管理センターと協働し、水質管理e-learning講習を実施した。 2. 教員の業績審査や中期計画及び年度計画に関する事項などの運営会議での審議事項を協議・決定し、円滑な組織運営に努めた。
<b>⑤センター・機構等業務</b>	<b>センター・機構等業務の目標の達成状況</b>
1. 学内外で発生した事故情報の要因分析と未然防止対策を提案する。 2. 関連部署と協働して、学内のリスク評価を行う。 3. 職場の定期巡視体制を整備する。 4. 教職員及びTA・SAへの安全衛生講習を実施する。 5. 化学物質リスクアセスメント実施の円滑な運営を努める。 6. 安全・安心な教育・研究環境基盤の整備を支援する。	1. 学内外で発生した重要な事件・事故案件の要因分析のための当事者や現場責任者との面談を行い、再発防止やリスク低減の方法を策定し、安全衛生環境の向上を図った。 2. 前年のリスク調査の結果を踏まえ、各担当部署で危機事態レベル別危機事態に対するリスク評価を行った。 3. 職場の定期巡視体制を整備するため、津島・鹿田の産業医巡視に同行して改善指導や改善方法等の提案を行うとともに安全衛生部と協働して意見交換や学内調査を行った。 4. 新人教職員(347名受講)、TA・SA(198名受講)対象にした安全衛生講習を実施した。また、役員・管理職(80名受講)を対象とした危機管理セミナーを実施した。 5. 化学物質リスクアセスメント実施・報告システムの保守管理を行い、累計1,348件の実施報告書を確認した。リスクレベルが高いものについては、指導を行い、リスクの低減を行った。 6. 安全・安心な教育・研究環境基盤の整備を支援の1つとして、異分野基礎研究棟(新設)の建物WGIにて安全衛生面の注意点を説明した。